

一 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(6)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(7)～(10)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) 電話で用件を伝える。
- (2) 磁気を帯びる。
- (3) 店の看板を立てる。
- (4) 港から乗船する。
- (5) 規則正しい生活を送る。
- (6) 系統立てて考える。
- (7) カルい荷物。
- (8) 図書館で本をかりる。
- (9) 問題のシユたる原因を調査する。
- (10) 新人選手の活躍をキタイする。

2 次のうち、楷書で書いたときに「林」と総画数が同じである漢字はどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 栄
- イ 固
- ウ 社

3 次のうち、返り点にしたがって読むと「遠きに行くには必ず適きよります。」の読み方になる漢文はどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 行 遠 必 自 適
- イ 行 遠 必 自 適
- ウ 行 遠 必 自 適
- エ 行 遠 必 自 適

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から現時点での掲載を控えております。

へらのえす。者かて控ま権慮点をり作配時載お著の現掲て

(注) 藍野裕之「ずっと使いたい、和の生活道具」による。

1 本文中のA～Cの——を付けた「の」のうち、一つだけ他とは明らかに異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 ① とあるが、次のうち、たくさんの樹種を扱う大工がいう「適材適所」が意味することについて、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 人材だけでなく樹種も、最適のものを最適の位置に配置すること。
- イ 材料の適性を理解したうえで、最適な方法で加工していくこと。
- ウ 職人が自分の適性を知ったうえで、技術力を高めていくこと。

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 石油をはじめとした地下資源の使用量が格段に増えていったのは、ここ100年ほどの話であるが、地下資源は、それ以前から植物と同じく人間の暮らしに役立てられてきた。
- イ 植物は再生力を持っているので、木を伐り出したときに新しい苗を植えれば、何十年か後には立派な木が育ち、多年草なら、どんな採り方をしても、来年も、その次の年も収穫することができる。
- ウ いい職人は、自然への畏敬の念ともいえる、素材に対する強い愛着を持っており、ただ素材を自然から採るだけでなく、自然を守っていくことも忘れてはいない。

3 ② とあるが、本文中で筆者が挙げている、植物素材と人のかかわりの長さや深さが垣間見られる漢字の例を次のようにまとめた。aに入る内容を、本文中のことはを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。また、bに入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から五字で抜き出しなさい。

- 箕、箆、籠、竿などのように、a という例。
- 「漆」は、木の中でひとつだけ b が充てられており、葉や幹よりも樹液が表現されているという例。

三次の【本文】と、その内容についてのAさんとBさんとの【会話】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

孔子の、弟子どもを具して、道をおはしけるに、垣より、馬、かしらるるさしいでありけるを見て、「牛よ」とのたまひければ、弟子どもあやしと思ひて、あるやうあらむと思ひて、道すがら、心を見むと思ひけるに、顔回といひける第一の弟子の、一里を行きて、心得たりけるやう、「日よみの牛といへる文字の、かしらさしいだして書きたるをば、牛といふ文字になれば、人の心を見むとて、のたまふなりけり」と思ひて、問ひ申しければ、「しか、さなり」とぞ、答へ給ひける。

(注) 顔回＝孔子の弟子。

日よみ＝ここでは、土支のこと。

【会話】

Aさん 孔子が馬を見て「牛よ」と言ったことに對して、弟子たちは②と
思い、何か理由があるだろうと、歩きながら、孔子の真意を見ようと
していたよ。
Bさん そして、第一の弟子の顔回が、その真意に気づいたよね。
Aさん そうそう。顔回は、孔子が馬を見て「牛よ」と言ったのは、馬が十二支
では午という文字で表されることが関係していると考えていたよ。
つまり、孔子が③が垣から頭をつき出して出している様子から、
Bさん ④という文字も上の部分につき出るように書く⑤とい
う文字になるということをおぼえて「牛よ」と言ったということだね。
Aさん 孔子は、そのことを弟子たちが理解できるかをためそうとし、顔回が
その真意を言い当てたわけだね。

1 いひけるを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2 次のうち、【会話】中の②に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

A もの知りだ

I 当然だ

ウ 不思議だ

日除けとなるような装飾を取りつける方法が有効になるかもしれない。そうしたことを判断するには、本や写真やネットからでは得ることができない、自分のからだを通して経験が必要になる。

使う人のことを知らないで描くことのできないイメージがある。

先日、京都のある料亭にお邪魔したのだが、お店のつくりやしつらえ、提供される料理にすっかり魅了されて、ここで働いているのはどんな人なのか、お店の方とすっかり話し込んでしまった。すると、実際に厨房に立ち、料理人と一緒に料理体験をするイベントに誘ってもらえたのだ。これは貴重な体験になった。ふだんとは真逆の、カウンター越しから客席を見る視点に、手元を見せる日本料理の奥深さを感じることで、厨房がいかに機能的に、それを見て美的に設計されているかに触れることができ、その空間を使う人でなければ見ることのできない景色を体験することができた。

すぐに仕事につながらなくても、こうした経験のくりかえしが、意識的にあれ無意識的になあれ、デザインには着実に反映される。どれだけ実体験をもって設計にあたることができるのか。デザインを頭のなかだけで起きている現象にしないためにも、モニターの外側にある、広い世界でデザインをする。だから、よるこびと驚きをもってさまざまな土地をめぐり、その背景を知ることが大切なのだ。

大事なことは、どんなときも興味をもってその瞬間に立ち会うこと、無為に時を過ごさないこと。デザインには、過ごした時間の全部が反映される。だから考えつづけることが重要になる。考えつづけた時間は、結果を裏切らない。

(吉里謙一)「にぎわいのデザイン」による

(注) マテリアル＝材料。素材。

クライアント＝依頼人。

吉里謙一『にぎわいのデザイン』コロンブス社、二〇二〇年

1 その土地を歩き、そこで暮らす人たちと交流するように努めているところが、筆者がこのように努めている理由として、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。 a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二十字で抜き出し、初めの六字を書きなさい。また、 b に入る内容を、本文中のことばを使って二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

空間デザイナーがつくるのは、 a であり、いきいきとした空間を生み出すにあたって、 b ほど豊かで貴重なものはないから。

3 次のうち、【会話】中の③、④、⑤に入れることばの組み合わせとして最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- A ③ 午 ④ 馬 ⑤ 牛
- I ③ 馬 ④ 午 ⑤ 牛
- ウ ③ 馬 ④ 牛 ⑤ 午
- エ ③ 午 ④ 牛 ⑤ 馬

4 次は、空間デザイナーである筆者がデザインをするることについて書いた文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

デザイナーがたんなる造形表現ではないことは、学生時代に学んだ。重要なのは形だけのアイデアではなく、その形になるように条件づけた要素の抽出と選択だ。そうした自分のデザインを支える土台を築きあげるには、机の前でパソコンと向きあっているだけではだめで、読書を通してあたらしい情報を得たり、つねにマテリアルを身近なところに置いて手で触れ質感を知ったりすることが欠かせない。つまりきちんとした実感をともなう生きた知識と思考を蓄積していかなければならない。

とくに空間デザイナーがつくるのは、さまざまな人の営みを包摂する立体的な空間だ。空間が単体で成り立つこととはなく、たとえばそれが独立した店舗であるならば、周囲にはほかにもどのような建物があるのか、そこにはどのような人びとが訪れるのか、街の特色は、地域住民の構成は——そういうことを知ること抜きに、いきいきとした空間を生み出すことはできない。

だから仕事で出かけるとき、とくに出張するときには、できるだけ時間をつくってその土地を歩き、そこで暮らす人たちと交流するように努めている。どんなに短い時間であっても、全身で体感した経験ほど豊かな情報はなく、生の会話から得られる知見ほど貴重なものはないからだ。

② ホテルの客室を設計するとして、採光がキーポイントになったとする。太陽との位置関係から、客室内の明るさを保つために窓枠の位置と大きさを決めるのだが、そのとき、その土地の太陽の光の強さを知っていなければ、ほんとうに最適な空間を設計することはできないだろう。夏場であってもモヤが立ちこめることの多い環境なら、窓枠のサイズは通常より広くてもいいかもしれない。あるいは壁紙や絨毯、クロス類をワントーン明るくしてもいいかもしれない。逆に空気が乾燥している土地なら日差しを強く感じるから、

2 次のうち、本文中の②に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- A しかし I たとえば U さらに

3 本文中のIで示した箇所は、本文において、どのようなことを説明するための具体例か。その内容についてまとめた次の文の に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二十五字で抜き出し、初めの六字を書きなさい。

空間をデザインする際、その空間を があるということ。

4 次のうち、本文中で述べられていることから内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

A 自分のデザインを支える土台を築きあげるには、読書を通してあたらしい情報を得るよりも、マテリアルに手で触れて質感を知り、きちんとした実感をともなう生きた知識と思考を蓄積していく必要がある。

I 空間デザイナーは、モニターの外側にある、広い世界でデザインをするのではなく、デザインを頭のなかだけで起きている現象としてとらえて、デザインをすることが大切である。

U デザインには、過ごした時間の全部が反映されるため、考えつづけることが重要であり、どんなときも興味をもってその瞬間に立ち会い、無為に時を過ごさないことが大切である。

受験
番号

番

得点

○

○

一											
3	2	1									
ア	ア	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
イ	イ	キ	シ	カ	カル	系	規	乗	看	帯	伝
ウ	ウ	タイ	シユ	りる	い	統	則	船	板	びる	える
エ	エ										

/12	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	/1	採点者記入欄
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	--------

四									
4	3	2	1						
ア	ア	ア	b					a	
			貴重なものはないから。					あたって、	いきいきとした空間を生みだすに
イ	イ	イ	25 ほど豊かで	20					
ウ	ウ	ウ							

/12	/2	/2	/2	/4	/2	採点者記入欄
-----	----	----	----	----	----	--------

三		
3	2	1
ア	ア	
イ	イ	
ウ	ウ	
エ	エ	

/7	/3	/2	/2	採点者記入欄
----	----	----	----	--------

二								
4	3						2	1
ア	b	a					ア	A
イ	という例。	20					箕、箆、籠、竿などのように、	B
ウ								C

/14	/2	/2	/6	/2	/2	採点者記入欄
-----	----	----	----	----	----	--------